

絹本着色愛染明王像

指定区分	国指定重要文化財(絵画)
読みかた	けんぽんちやくしよくあいぜんみょうおうぞう
所在地	矢掛町東三成 捧沢寺
指定年月日	明治34年8月2日
解説	愛染明王の肉身は朱塗りに墨ぼかしとし、五鈷杵(ごこしよ)、五鈷鈴(ごこれい)などは金泥の濃淡によりぼかしをつけている。宝瓶から出た周囲の七宝は、宝珠、宝玉、貝などバラエティに富んでいる。また、右中手に握る箭(や)は腕前に捧げるようにして持ち、古様の多くが外に張り出すものと違った構図になっている。矢掛町の捧沢寺に伝来するもう一つの愛染明王像(国指定重要文化財)と比較し、均整がとれ描線が的確に表現されるが、技巧的・類型化されている。南北朝期頃の制作と推測されている。破損が著しく、戦前の修理時に幅装から額装に改められた。
アクセス方法	
公開状況	岡山県立博物館保管
設備	
備考	